

ISO/TC 68 国内委員会総会 議事録¹

日 時：2025 年 6 月 3 日（火）13：30～17：00
場 所：日本銀行本店（ハイブリッド形式：対面／Cisco Webex 会議）
出席者：ISO/TC 68 国内委員会 松本委員長・委員・リエゾン・事務局
日本銀行 武田決済機構局長、下田参事役 ほか

- 2025 年 6 月 3 日開催の「ISO/TC 68 国内委員会総会」は、ハイブリッド形式で開催²した。議事の模様は、以下のとおり（詳細は当日配付資料を一部抜粋した別添資料を参照）。

開会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授、日本銀行決済機構局の武田局長が開会挨拶を行った。

—— 松本委員長は、「本日は大勢の方々に出席いただき、御礼申し上げます。今回の総会でも、委員方・事務局が協力し、内容が盛り沢山の総会資料を作成いただいたことに感謝を申し上げます。非常に分かりやすく、短時間で全体を把握できるものに仕上がっている。さて、最近の米国では、トランプ政権の影響を受けて米国国立標準技術研究所（National Institute of Standards and Technology : NIST）のコンピューターセキュリティ部門の幹部・スタッフが 10 名程度離職し、暗号技術分野を除き、同部門のセキュリティ関係のプログラムが機能不全の状態に陥ったという話を聞いた。政治情勢によりこのようなことも生じ得る等、国際的な活動の難しさを実感している。国内においても、金融サービスや決済システムを取り

¹ ISO（International Organization for Standardization：国際標準化機構）/ TC 68（Technical Committee 68：金融サービス専門委員会）は、金融業務に利用される情報通信技術や情報セキュリティ技術等の国際標準化を担当している。ISO/TC 68 国内委員会は、ISO/TC 68 所管の金融サービス分野における国際標準化について国内での審議および情報共有等を行うことを目的とし、本委員会の総会は議長を務める委員長が招集して年 2 回程度開催すること、本委員会の審議はこの総会において行うことを原則としており、議事については議事録を作成する（ISO/TC 68 国内委員会運営規約 <https://www.boj.or.jp/paym/iso/isotc68/data/kiyaku.pdf>）。

² 2019 年 12 月までは「対面形式」で開催。その後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて 2020 年 6 月から 2023 年 12 月までの間は「オンライン形式」で開催。2024 年 6 月、環境の変化を捉えて「ハイブリッド形式」での開催へ変更。2024 年 12 月は「ハイブリッド形式」で開催した後、意見交換のための「懇親会」を開催。

巻く情勢が日々変化している状況下、ISO/TC 68 国内委員会が存在感を増して ISO 活動を進めて行くことを期待している。本日は忌憚のない意見をいただき、活発な報告・議論ができるよう進めていきたい」と述べた。

—— 武田局長は、「決済システムの高度化は、伝統的な決済システムとの相互運用性を確保しつつ、新たな技術を制度・実務と調和した形で上手に取り込み実現していくことが大切。国際標準は、国内の強制規格や規制の重要な素地となるなど、影響力を持つため、国際的に多くの国に当てはまる「真に共通化すべき技術的内容」を専門家の議論により慎重に検討することが欠かせない。各国の決済システムの差異や、技術優位を通じた金融分野の主導権争いの思惑もあり、コンセンサスを得ることは難しい作業。ISO/TC 68 の 22 の国際標準策定プロジェクトの 3 年がかりでの遂行や、その前段階の検討に取り組まれている皆様の日々の努力に、深く感謝申し上げる。国際標準策定において「技術的な議論」に加えて「政策的な議論」も切り分け困難な形で含まれてきている。日本銀行は、委員の皆様との対話を通じてプロジェクト内で論点化している政策的な議論の調整を支援し、感度高く金融サービス分野の標準化の動向を把握したいと考えている」と述べた。

1. 委員会審議

1-1. ISO/TC 68 の審議体制（2024 年 12 月総会以降の変更点、5 月 16 日時点）

1-2. ISO/TC 68 国際投票案件の審議および投票結果（2024 年 12 月総会以降の進捗分、5 月 16 日時点）

1-3. ISO/TC 68 国内委員会総会議事録（2024 年 12 月開催分）

事務局は、前回総会以降の ISO/TC 68 の審議体制の変更点と、この間にメール審議を実施した国際投票案件³の審議および投票結果の状況について説明を行った。また、日本銀行 HP 掲載済みの「前回総会議事録」についても確認を行った。

2. ISO/TC 68 の報告

³ 国際規格の開発には、以下の 6 段階のプロセスがある*。予備業務項目（PWI: Preliminary Work Item）→ 新業務項目提案（NP: New work item Proposal）→ 作業原案（WD: Working Draft）→ 委員会原案（CD: Committee Draft）→ 国際規格案（DIS: Draft International Standard）→ 国際規格（IS: International Standard）。
※ 必要に応じて、DIS 投票時におけるコメントを踏まえた最終国際規格案（FDIS: Final Draft International Standard）の投票が実施され、その場合、7 段階のプロセスとなる。

2-1. SC2、2-2. SC8、2-3. SC9、2-4. TC68、2-5. 質疑応答

最近の ISO/TC 68 の動向について、TC 68 および傘下の WG・MA・TG・AG 毎に、各国内作業部会の取り纏め役から、策定中のドラフトや規格について、概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告項目について説明がなされた後、討議が行われた。

3. ISO/TC 68 関連の報告

3-1. ISO 20022 RMG

ISO 規格「ISO 20022」(ISO/TC 68/SC 9 所管)の登録管理グループ (ISO 20022 RMG) および同傘下の SEG 等の動向について、田貝氏 (ISO 20022 RMG Convenor) と各 SEG 等の日本メンバーで取り纏めた内容に基づいて、田貝氏および日本メンバーから概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告があり、その後討議が行われた。

4. リエゾンからの報告

4-1. ISO/TC 307 (Blockchain and Distributed Ledger Technologies)

ISO/TC 307 国内委員会の鈴木委員より、TC 307 の最近の動向について報告が行われた。

4-2. ISO/IEC JTC 1⁴/SC 17 (Cards and Security Devices for Personal Identification)

ISO/IEC JTC 1/SC 17 国内委員会の榊委員長より、SC 17 の最近の動向について報告が行われた。

4-3. ISO/IEC JTC 1/SC 27 (IT Security Techniques)

ISO/IEC JTC 1/SC 27 専門委員会の崎村委員長より、SC 27 の最近の動向について報告が行われた。

4-4. ISO/IEC JTC 1/SC 37 (Biometrics)

ISO/IEC JTC 1/SC 37 専門委員会の坂本委員長より、SC 37 の最近の動向について報告が行われた。

⁴ ISO と IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) との合同技術委員会。

5. 事務局からの連絡

5-1. 委員の異動、リエゾン交代（2024 年 12 月総会以降の変更分、5 月 16 日時点）

5-2. 次回総会開催予定

事務局は、前回総会以降の ISO/TC 68 の WG 等新設・解散状況と委員の異動について説明を行った。また、次回総会開催予定については、ISO/TC 68 国内委員会総会は 2025 年 12 月にハイブリッド形式での開催を見込んでいること、ISO/TC 68 国際会合および ISO 20022 RMG 国際会合は、2025 年 6 月に開催される予定であることを連絡した。

6. 質疑等

総会全体を通して質疑が行われた。

閉会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授が閉会挨拶を行った。

以 上